

◆ その後の動向

小型排気量の車の普及を阻む要因が都市のイメージダウンにつながるという偏見で、これまで多くの都市が小型車の市街地通行制限を実施していました。漸く、2006年になって、全国的に乗り入れ制限を緩和する政策が打ち出され、同時に小型車奨励の為に排気量別に税率を数段階に分けてセッティングする改革も行われ、小型車の売れ行きは急上昇、外資系各社も売り込みに力を入れています。今後は、上海などで導入が決まったヨーロッパの厳しい排出基準の採用による買い替え需要も見込まれます。

環境へのシフトでもう一つ注目されるのが燃料問題。アルコール混合ガソリンの普及が推進され、既に2004年には<自動車用アルコール混合ガソリン試行地区拡大プラン>と<同実施細則>が公布され、黒竜江・吉林・遼寧・河南など9省がテスト地区に選ばれました。新燃料は排気ガスを減らし、またサトウキビなどを原料とするため農業にも貢献するという一石二鳥で、安徽省では2005年4月からバイクを含む全ての車に新燃料を義務付けています。また、電気バス導入計画も進められていて、北京オリンピック開催時には1000台近くが使用される予定とのことです。